

PROFILE

吉 田 繁

近畿大学・理工学部・生命科学科・生体機能
研究室 教授



生命科学科は、2002年4月に開設されました新しい学科です。近畿大学では従来より薬学部・農学部・医学部・生物理工学部などの学部で生命科学の教育と研究を進めておりますが、新たに理工学の観点から生命科学にアプローチすることを目指して設立されました。本学科の教育目標は、生命全般に関する基本的知識を与えるだけでなく、事物を総合的に判断して問題を解決する能力を育てることです。「教育」の概念が急速に変貌を遂げつつある現在、どのようにして目標に近づけば良いのかを考えながら、日々学生さんに接しています。

私が研究者としての道を歩むことになりましたきっかけは、京都大学医学部在学中に佐々木和夫教授の講義を受けて研究の素晴らしさを知ったことです。卒業と同時に佐々木先生の主催しておられた脳神経研究施設生理学部門に大学院生として受け入れていただき、多くの先生方から基本的なことを教えていただきました。私を含めて6名の大学院生が在籍しており、互いに切磋琢磨したものでした。現在の私が大学院生時代のエネルギーの延長として存在しているのではないかと思うにつけ、全国の大学院生の方々が毎日を有意義に過ごされることを切に願っております。

大学院を修了してから、UCLAの萩原生長（すすむ）教授の研究室に留学いたしました。海辺にあるロサンゼルスはさまざまな海産動物に恵まれており、実験目的に合わせて的確に動物を選ばれる萩原先生には、ただただ感心するばかりでした。吉井光信先生（現東京都精神医学総合研究所精神生物学研究系長）と実験を御一緒したウミ

シイタケ（sea pansy）など、初めて見る生物に目を見張ったものでした。大森治紀先生（現京都大学教授）と実験を御一緒できたことも、私の研究人生にとって貴重な体験でした。また、アメリカとは趣の異なるイギリスで研究生活を過ごせたことも、良き思い出となっています。

現在の主要研究テーマのひとつは「Naチャンネル」ですが、大学院生時代からの継続課題です。当時は、松田好弘先生（後の長崎大学生理学教授）の御指導のもとにマウスの後根神経節細胞を実験材料として電気生理学的研究を行っておりました。また、京都府立医科大学病理学教室の米沢猛教授に神経細胞培養法を教えていただきました。顕微鏡下に展開する神経細胞体や髄鞘を被った神経線維のみごとなさは、今でもありありと思い出出すことができます。このような「感動体験」が研究の大きな原動力であることを思うたびに、そのような機会を与えてくださった多くの方々に深く感謝しています。

近畿大学の生命科学科では微生物・植物・動物などあらゆる生物を研究対象としていますので、マウスやラットなどの哺乳動物だけでなく種々の生物の特徴を生かした研究に手を染めたいと考えております。

生命現象の探求という目標に向かって多くの方々にお教えいただきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

[略歴]

1975年3月 京都大学医学部医学科卒業
1979年3月 京都大学大学院医学研究科博士課

程修了
1979年5月～1981年5月
UCLAに留学
1981年6月～1994年2月
長崎大学医学部第二生理講師
1986年9月～1988年9月
エディンバラ大学に留学

1988年9月～1990年9月
エディンバラのMRC (Medical
Research Council) 研究員
1994年3月より、福井医科大学第一生理助教授・
長崎大学医学部第二生理助教授・生理学研究所客
員助教授を経て現職